

議会

だより

86

3月定例議会号

平成23年5月
発行 佐呂間町議会



中学生になると知らない顔の人もいて最初はちょっと緊張します！「佐呂間中学校入学式」4/8 撮影

| | | |
|-----------------------|-----------------------------|---------------------|
| 3月定例会 | 審議した議案 2～6 P | 町長行政報告 6P |
| | 予算特別委員会審査報告 / 予算特別委員会質疑の中から | 7～8 P |
| | 一般質問 「職員の採用について」など5名の議員が質問 | 9～13 P |
| 第1回臨時会 | 1 4 P | 第2回臨時会 1 5 P |
| 傍聴者からの声 / あとがき | 1 6 P | |



さろま

あなたと町議会を結ぶ情報誌

佐呂間町URL <http://www.town.saroma.hokkaido.jp/>

「議会だより」は再生紙を使用しています

第1回定例会

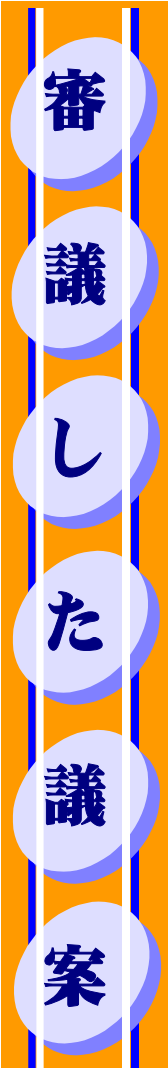
第1回定例会が3月9日から16日で開催され、平成23年度一般会計ほか6特別会計予算を審議し、原案のとおり可決しました。

・審議した議案

平成23年度当初予算総額は
75億4416万円 (前年比9.5%増)
一般会計は53億3516万円 (前年比21%増)

...老人保健特別会計は22年度で終了...

- 平成23年度佐呂間町一般会計予算
 - 平成23年度佐呂間町簡易水道特別会計予算
 - 平成23年度佐呂間町国民健康保険特別会計予算
 - 平成23年度佐呂間町公共下水道特別会計予算
 - 平成23年度佐呂間町介護保険特別会計予算
 - 平成23年度佐呂間町介護サービス事業特別会計予算
 - 平成23年度佐呂間町後期高齢者医療特別会計予算
- 平成23年度各会計予算については、議長を除く8名による予算特別委員会に付託され審議を行い、原案可決としました。
- その後本会議において但木委員長より審査結果報告がなされ、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決となりました。



平成23年度 佐呂間町各会計当初予算

単位：千円

| 会計区分 | 23年度当初予算 | 22年度当初予算 | 対前年度増減額 | 増減率 | |
|------|-----------|-----------|---------|----------|--------|
| 一般会計 | 5,335,163 | 4,409,031 | 926,132 | 21.0% | |
| 特別会計 | 簡易水道 | 257,111 | 485,693 | △228,582 | △47.1% |
| | 国民健康保険 | 864,574 | 908,589 | △44,015 | △4.8% |
| | 老人保健 | — | 872 | △872 | — |
| | 公共下水道 | 242,650 | 239,435 | 3,215 | 1.3% |
| | 介護保険 | 548,431 | 530,488 | 17,943 | 3.4% |
| | 介護サービス事業 | 227,727 | 246,231 | △18,504 | △7.5% |
| | 後期高齢者医療 | 68,511 | 70,855 | △2,344 | △3.3% |
| 合計 | 7,544,167 | 6,891,194 | 652,973 | 9.5% | |

委員長報告の要旨、特別委員会での質疑の内容は7～8頁に掲載しています。



第1回定例会

条例制定1件、条例改正7件の審議を行い、すべて可決しました。

・審議した議案

23年度の 主な事業

- ・任意予防接種助成事業 930万円
- ・新規就農者奨励補助金 1107万円
- ・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金 8億190万円
(町負担額はTMRセンターの補助分で1億5千万円)
- ・住宅用太陽光発電システム設置事業費補助金 300万円
- ・町有林整備事業 (保育・造林・素材生産) 1635万円
- ・漁港修築事業地元負担金 5396万円
- ・プレミアム付全町共通商品券発行事業 2060万円
- ・トータルタイム販売促進事業 274万円
- ・緊急雇用創出事業 656万円
- ・住宅建設促進事業費補助金 1550万円
- ・佐呂間30号道路改良舗装工事 2600万円

- ・浜佐呂間川口道路改良舗装工事 1600万円
- ・佐呂間幸町第2新幸道路改良舗装工事 1700万円
- ・佐呂間二六町道路改良舗装工事 1100万円
- ・若佐公営住宅新築工事 1億7342万円

条例

- 佐呂間町ふれあい交通網整備事業基金条例の制定について
昨年9月末で湧網線代替バスの運行が終了したことに伴い、佐呂間町国鉄湧網線代替輸送確保基金を廃止し、ふれあい交通網整備事業基金に積み替えるため条例の制定をするものです。
- 佐呂間町収入証紙条例の一部を改正する条例制定について
佐呂間町廃棄物の処理及び清掃に関する条例の一部を改正する条例制定について

有料ごみ袋に小袋を新設!!
一枚10リットル入りで20円

現行の有料ごみ袋は15リットル、30リットル、45リットルとなっていますが、小家族の方など更に小さいごみ袋も使用したいとの要望があり、今回新たに10リットルで20円のごみ袋を追加するため関係条例の改正を行いました。

制定について

現行の出産育児一時金は35万円、経過措置として平成23年3月末までは4万円の上乗せがありましたが、4月以降は恒久的に出産育児一時金を39万円とするため条例の一部改正を行ないました。

- 佐呂間町立佐呂間保育所条例の一部を改正する条例制定について
佐呂間町立へき地保育所条例の一部を改正する条例制定について
保育料について、国の基準額表が7階層から8階層に改正されたため、本町においても12階層に分類されていた保育料算定のための階層を13階層に変更するため条例の一部改正を行いました。
- 佐呂間町国民健康保険条例の一部を改正する条例制定について
佐呂間町総合介護条例の一部を改正する条例制定について
介護保険法の条文改正により、本町の条例も条文改正を行うものです。
- 佐呂間町総合介護条例の一部を改正する条例制定について
牧野の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例制定について
酪農家戸数の減少により乳牧頭数が減少していることから、現在14箇所ある町の牧場を7箇所に変更するための条例改正が行われました。

第1回定例会

平成22年度一般会計ほか7特別会計の補正予算を原案のとおり可決しました。

・審議した議案

：平成22年度各会計補正予算：

国からの地域活性化交付金合わせて89921万円！！

□平成22年度佐呂間町一般会計補正予算（第9号）

4億6308万円が追加され、予算の総額が51億7691万円になりました。

【主な歳入】

- ・普通交付税 4億5384万円
- ・地域活性化・きめ細かな交付金 6791万円
- ・地域活性化・住民生活に光をそそぐ交付金

・財政調整基金繰入金 2130万円

・減債基金繰入金 4741万円

・各公共施設整備基金繰入金 2000万円

・ふれあいバス運行業務委託事業費債 1180万円

・プレミアム付商品券発行事業費債 2050万円

【主な歳出】

・備荒資金組合超過納付金積立金 2億5000万円

・財政調整基金積立金 1億5000万円

・若佐コミセン駐車場整備工

事 1440万円

・ふれあいバス車両購入費 1400万円

・佐呂間厚生病院運営損失負担金 4000万円

・漁港修築事業地元負担金 1209万円

・武道館・温水プール改修工事 3024万円

・佐呂間町簡易水道特別会計繰出金 2712万円

・佐呂間町国民健康保険特別会計繰出金 1936万円

・佐呂間町公共下水道特別会計繰出金 3164万円

□平成22年度佐呂間町簡易水道特別会計補正予算（第4号）

2811万円が減額され、予算の総額が5億354万円になりました。

□平成22年度佐呂間町国民健康保険特別会計補正予算（第4号）

1559万円が減額され、予算の総額が9億410万円になりました。

□平成22年度佐呂間町老人保健特別会計補正予算（第2号）

276万円が追加され、予算の総額が374万円となりました。

□平成22年度佐呂間町公共下水道特別会計補正予算（第1号）

1454万円が減額され、予算の総額が2億2489万円となりました。

□平成22年度佐呂間町介護保険特別会計補正予算（第3号）

2561万円が減額され、予算の総額が5億1704万円となりました。

□平成22年度佐呂間町介護サービス事業特別会計補正予算（第4号）

財源変更。補正額に増減なし。

□平成22年度佐呂間町後期高齢者医療特別会計補正予算（第1号）

216万円が減額され、予算の総額が6868万円となりました。



補正予算
質疑の中から

◎簡易水道の工事費の減額について

【質】今回工事費を減額しているが、工事の安全性などにはないか。

【答】工事を発注するときの詳細な設計で金額が落ちると、受注した会社の企業努力もあり、予算額よりも落ちた。

◎介護保険料の未納者の介護サービスについて

【質】介護保険料の収納率が96%となっているが、4%の未納の方々に対する介護事業が停止しているようなことはないか。

【答】滞納している方で実際にサービスを受けている方はいなく、サービスを受ける場合は介護認定が必要ですが、未納者はその認定も受けていない人なので、サービスそのものにはまだ影響する状況はありません。

第1回定例会

・ 審議した議案

3件の意見書を可決し関係省庁に提出しました。

その他案件5件の審議を行い原案どおり可決しました。

意見書

□ 新たな高齢者医療制度に関する意見書の提出について

厚生労働省が発表した後期高齢者医療制度に変わる新制度の骨格で現在の後期高齢者の大部分を国保で引き受けるとしている。

新制度は、高齢者や国民が安心して医療が受けられる制度となるよう要望する意見書が可決され、内閣総理大臣ほか関係大臣宛提出しました。

□ 地域医療存続のための医師確保に関する意見書の提出について

医師不足の現状は、深刻な社会問題となっており、地域医療が崩壊する危機的状況が生じている。

平成16年に始まった新医師臨床研修制度により地方の医師不足が深刻な状況であり早急な改善策が求められることから、医師不足地域での数年

間の勤務義務など医師派遣体制を構築する法的措置を講じるよう要望する意見書が可決され、衆参両院議長ほか関係大臣宛提出しました。

□ 平成23年度畜産物価格決定等に関する要望意見書の提出について

北海道の酪農、畜産は牛乳乳製品及び食肉の安定供給に加え、地域経済、社会、雇用等を支える基幹産業として重要な役割を果たしている。

しかし、配合飼料などの高騰による生産コストの上昇、景気悪化による消費の減少や生産者手取り価格の低迷など厳しい状況にある。また、TPP交渉への参加問題、日豪EPA交渉など市場開放をめぐって危機的な状況にさらされている。

一方、国は10年後の食料自給率を50%へ向上させる目標のため各種施策を総合的に推進していくとしている。

したがって、わが国の食料供給を支える北海道の酪農畜産が、食料自給率向上に寄与し持続的発展をするためには、所得補償政策と経営安定

政策の確立など総合的な酪農・畜産政策を推進するよう強く要望する意見書が可決され、衆参両院議長ほか関係大臣宛提出しました。



その他

□ 北海道市町村総合事務組合規約の変更について

□ 北海道町村議会議員公務災害補償等組合規約の変更について

本年4月より道立紋別病院が紋別市、雄武町、興部町、滝上町、西興部村で組織する一部事務組合による経営となることから、これら組合規約に広域紋別病院企業団を追加するものです。

佐呂間コミュニティセンターに係る指定管理者の指定について

佐呂間コミュニティセンターの指定管理者の指定を次のとおり議決しました。

・ 指定する指定管理者
佐呂間町商工会

会長 関東 俊彦

・ 管理を行わせる期間

平成23年4月1日から

平成28年3月31日

佐呂間町老人福祉センターに係る指定管理者の指定について

佐呂間町屋内ゲートボール場に係る指定管理者の指定について

老人福祉センターと屋内ゲートボール場の指定管理者の指定を次のとおり議決しました。

・ 指定する指定管理者
社会福祉法人

佐呂間町社会福祉協議会

会長 宇佐美 不二夫

・ 管理を行わせる期間

平成23年4月1日から

平成28年3月31日

第1回定例会

人権擁護委員の推薦2名と同意案件3件に同意をしました。

・町長行政報告

・審議した議案

□人権擁護委員の推薦について

人権擁護委員として、次の方を推薦するための意見を求められ、議会の意見として適任との意見を可決し、町長あて通知いたしました。

若佐 桐山三津代氏
西富 浅田 清氏



□固定資産評価審査委員会委員の選任につき同意を求めることについて

固定資産評価審査委員会委員として、次の方の再任を同意しました。

永代町 榎本 彰氏
共立 八矢 憲一氏

□オホーツク町村公平委員会委員の選任につき同意を求めることについて

オホーツク町村公平委員会委員として、次の方の選任を同意しました。

北見市端野町
田中 誠氏

町長行政報告

□平成22年国勢調査結果の速報値について

昨年10月に全国一斉に行われた国勢調査の速報値ですが、世帯数が2415世帯、人口が5896人で平成17年より149世帯、497人の減少で、この要因は小中学校統合による教員世帯の減少、新佐呂間トンネルの工事関係者の減少、町内の水産加工場に従事する外国人の減少によるものと考えます。

□ふれあいバスの交通事故について

3月8日、仁頃トンネルの出口付近で対向してきた軽トラックがスリップしてきてバスの側面に衝突しました。この事故で軽トラックの運転手は怪我がなく、バスの運転手は軽い打撲程度で、相手方の過失が100%で物損事故扱いとしました。

今後においても事故を起こさないよう周知徹底をさせていただきます。

《 記 載 例 》

(表紙)

に関する

請 願 書
(陳 情 書)

紹介議員 印

(本文)

に関する請願(陳情)

要旨

理由

平成 年 月 日

佐呂間町議会

議長 殿

佐呂間町字 町 番地 印

◆◆◆ 請願と陳情について ◆◆◆

請願・陳情は国、道、町政に住民の皆さんの意見や要望を反映させる一つの方法で、個人、団体を問わず誰でも提出することができます。

陳情書の場合、紹介議員は不要です。

第1回定例会

予算特別委員会の審査報告要旨と質疑の
主なものの要約を掲載しました。

- ・ 予算特別委員会審査報告
- ・ 予算特別委員会質疑の中から

予算特別委員会審査報告 (要旨)

緊急性・将来性・効率性など十分な精査を
され、安全安心なまちづくりを願う

本年度の一般会計予算総額は、53億3516万円、前年対比では9億2613万円の増額で21%の伸びとなっております。

予算増の主な要因としては、佐呂間農協が事業主体のTMRセンター建設事業に対する補助、若佐公営住宅建設道路整備事業などです。歳入としては、地方交付税が23億円、町税は景気低迷等により横ばいで、各種基金の繰入により収支のバランスをとっているのが実情です。

特別会計においては、6会計合わせた予算総額が22億900万円で、前年度より2億7315万円の減少で、簡易水道会計で、浜佐呂間簡易水道事業が終了したことが大きな要因です。

本年度の歳出は、新たな行政課題も考慮しながら緊急性、将来性、事業の必要性、妥当性に十分な配慮がなされているものと理解するものであ

り、歳出においては行財政改革の継続を図り、健全財政の堅持に努められていることが伺えるものであります。

歳入においては、普通交付税と特別交付税の配分の見直しが行なわれ、国勢調査人口の減少による影響も想定されます。また町税についても国内景気低迷等により増収を見込むことは難しく、厳しい経済情勢であることを認識せざるを得ません。

当委員会といたしましては、今後益々厳しくなる地方財政において、経費の削減はもちろん、行政のなすべきことを再確認し、緊急性、将来性、効率性などを十分に精査され、安全安心で住みよいまちづくりを願うものであります。

以上、付託されました平成23年度一般会計予算、各特別会計予算は原案可決と決定しましたので報告します。

予算特別委員会質疑の中から

総務費

(質) 除雪センターの職員体制について、昨年退職者を1名嘱託として雇用しているが、今後

はどうするつもりか。
(答) 今年の退職者も嘱託として雇用して、4名体制は維持し、この4名体制が組める間は直営で持っていこうという考えです。

(質) 北海道自治体情報システム協議会負担金2357万円

の内容は。

(答) 全道で31町村が加入している協議会で、住民記録、税関係、財務会計、上下水道等の電算システムに関する経費を昨年までは1800万円ほど負担していたが、平成24年から外国人の住民登録が制度化されることでシステム改修のため今年は550万円ほど増額となるものです。

(質) デジタル移行に伴う難聴地域の解消は。 視

(答) 町では3箇所のデジタル中継局の整備をしたが、受信できない世帯は、今まで把握している中で6件あり、このうち4件は受信可能となり、

民生費

(質) 社会福祉協議会の運営費補助金で125万円の増額

要因は。

(答) 共同募金の車両購入費300万円のうち75万円の負担と給料のベースアップ分の36万円が主な増額の要因であります。

(質) 高齢者対策事業の中で外出支援サービス委託料とは

か。
(答) 昨年10月から開始の人工透析の移送サービス、在宅で寝たきりの方の病院への通

第1回定例会

・予算特別委員会質疑の中から

衛生費

(質) 厚生病院の損失負担金については国からの助成はあるのか。

(答) 公的病院に係る損失補てんについては、国からの特別交付税として、佐呂間厚生病院のベッド数が67床で、最大で1億1700万円までの損失について交付税をもらうことが可能でした。

しかし今後は、厚生クリニックということで、ベッド数がゼロとなるので交付税は当たらないこととなります。

(質) 知来の一般廃棄物処理の残余年数は、

(答) 簡易的な調査では、傾斜

農林水産業費

(質) 有害鳥獣駆除の報奨金は町外のハンターには出ないのか。

(答) 夏場は町で有害鳥獣駆

除の許可を取っているので町内の猟友会の人だけが駆除できます。冬場の狩猟期間は町外の人も駆除は可能だが、町内をよく知る猟友会の方が取ったものを確認し報償費を出しています。

また今年の予算では、佐呂間町の猟友会と判るようにはジャンパーを作り、有害鳥獣

商工費

(質) 悠林館の指定管理者は施設の周辺整備をすべきでないのか。

(答) 大石社長とも話をしているが、お客を迎える形から少しの時間でも草刈をしたり、また、庭に砂利を敷いてプランターを置くなどの方法も考えられます。経営は以前として厳しいが、5月頃には経営状況も報告したいと考えて

土木費

(質) 新築となる若佐公普住

の募集はいつするのか。

(答) 公住の建て替えとなるので、現在入居している方の住み替えが優先となります。現在10戸の入居者の内6戸が入居を希望しているので残り2戸分が一般募集となる予定です。

完成は12月上旬を予定しており、10月下旬から11月までには入居者の募集をする予定です。

消防費

(質) 佐呂間厚生病院の無床化により救急車2台による救

急

体制で問題はないか。
(答) 救急の年間件数は230回でそのうち10件程度は重複で入っています。救急車2台のうち古いものは高規格救急に入れ替えてもらい、隊員についても2名増員の15名体制となりました。

万が一救急車が足りないとときには湧別や生田原、遠軽から入ってくる体制となってい

教育費

(質) 学校給食の地場産品の活用と高校生への給食の提供

の

考えは。

(答) 21年度の食材費1700万円の内、佐呂間産の使用は19%、22年度は2月末で1700万円の内2.6%の使用率で、ホタテ等の水産物と玉ねぎ、カボチャ、ブロッコリー等の野菜等が主で、23年度は佐呂間ポークも利用したいと考えています。

高校生の給食利用は、給食センターが文部科学省の補助施設であることや、現在の施設では消毒のスペースに余裕がないことなどもあり、現時

簡易水道

(質) 今後の簡易水道事業の

画はどのようになるのか。

計

(答) 浜佐呂間地区は22年度で終了し、北富地区は5年間で15億円程度、その後は若佐地区で調査費はつけていませんが10年間で18億から20億円ぐらいで全てを整備したいと考えます。

第1回定例会

5名の議員が町政全般にわたり理事者の考えを質しました。

・一般質問

一 般 質 問



三田 真美 議員

職員採用について

【質問】

近年、経済が低迷する状況で新卒者の就職率が低下しています。本町では大きな企業もないことから正職員の雇用の場として、役場はこれからの未来を背負う子ども達にとって、安定した職場であり公務員を指す人が多くなっています。

ここ数年、役場は高卒者の採用がなく地方公務員の試験を受ける者も少ないし、佐呂間高校でも高卒者を採用するという認識がなく、今回高卒者が採用されるという情報もないと言われているようです。また、高校へ町からの求人もないことから情報が保護者に伝わっていないのが現状です。採用試験は町独自でやって

職員の採用については

高卒者もありえるのか！

町長 佐高生でも公務員試験の合格者がいれば採用も考えられる。

いないので試験合格情報もすぐに伝わらないようですが、情報公開はオープンにすべきと考えます。

【質問】
今後の職員採用計画について伺います。

また、緊急雇用対策（道事業）の2名の募集はどうするのですか。

【答弁】（町長）
本町の職員採用については、定数条例に定める職員定数と別に定める定員管理適正化計画に基づいて、5年ごとに計画期間を定めています。

平成22年からの5年間で退職者11名に対し8名の採用を予定しています。23年度は1名採用、24年は2名、25年は3名、26年は2名の予定となっております。

職員の採用については、管内17の町村で統一で試験を

行っており、今年は佐呂間高校からの合格がなく採用はありませんでした。

採用については広報等での周知について検討したいと思います。

また、緊急雇用創出事業は、

医師の確保について

【質問】

4月からの厚生病院の無床化でクリニックに変更しますが、町長は住民説明会の時に医師の確保ができれば、病院に

したいと話されていました。

厚生連に頼るばかりでなく町独自で医師を目指す子ども達に支援はしないのでしょうか？道内の町でも月額30万円入学金補助として100万円

な
どの奨学金制度があります。

厚生連でも奨学金があります。必ずしも佐呂間の診療所に医師を回してくれるか疑問です。

町独自の奨学金の制度を設ける考えはありますか？

【答弁】（町長）

厚生連は農業団体として唯一病院を経営しており、道内でも最も大きな公的病院を運営しています。

医師の確保と病院運営については引き続き厚生連に任せようと考えています。病院については、現在の他の民間の病院の後継者が確保されれば支援していく形もあると思っています。



4月から佐呂間厚生クリニックとしてスタート

第1回定例会

・一般質問



安田 一彦 議員

レジャーによる遭難の場合は 捜索費用を請求してはどうか！

町長へ 近隣市町村の状況をみて

レジャーによる遭難の捜索費用の一部を

当事者等に請求する制度の実施について

【質問】

水難事故が発生した場合、地域救難所の所員(漁業者)は自分の仕事を中断してでも現場に出動し、捜索に協力して

お。救難所(漁協)は当事者や家族らに経費の請求は一切せず、当事者らには経費の支払い義務が発生しないのが現状であります。

他の自治体では遭難捜索費用の一部の請求を実施している町村があり、「費用の負担とともに遭難抑止効果」が出て

の 考 え

をお聞きいたします。

【答弁】(町長)

最近では趣味の多様化でレジャーブームの盛んな中、モーターボートや魚釣り、登山、山菜採りが多く、自然を楽しむ機会が増えていきます。不幸にも遭難や行方不明者となつた方に対しては、地元市町村職員、消防職員、消防団、漁業者など多くの関係者の出動が行われ、多額の費用がかかっているのが実態であります。

請求を実施している町村の要綱では費用の負担には人件費、食糧費などがあり、また規定の中には遭難者や家族の負担力により減免措置も設けら

れています。

海上における捜索費用の負担は、救難所に対して法人の北海道漁船海難防止・水難救済センターから費用の一部負担がありますが、それ以外の対応は漁協の判断によるものであります。他の経費については請求をしていなかったのが現状であります。

この件については、近隣市町村の状況を見定め、対応をしていきたい。山菜採りについては、本町では町民が自分の特定の場所を持っており、地形的にも十分把握しており、今まで遭難がなかったわけですが、サロマ湖などの海難事故は今後も発生することが考えられるので、一市二町、三漁協とも十分協議をし、要綱なり条例を含めて制定の方向で検討させていただきま

【質問】

昨年水難事故についても2日間で21万円の経費がかつたとのことだが、長期に渡る捜索の場合かなりの出費となるので、この辺についても考慮したい。

考

また、山菜採りについては、最近非常にヒゲマの出没が多いこと、高齢者が増えたことにより、慣れた場所でも、ついつかりという事故が増えているようですので、山菜採りについては考えていただきたい。

【答弁】(町長)

海難については漁協の組合長とも協議をさせていただきましたが、一般レジャーの海難の場合は、2日以上になつた時は請求をしなければならぬとのことであります。

一市二町でサロマ湖を守るわけで、レジャーで来た人の事故と仕事で事故になつたときの区別を含めて対応していきたい。

山菜採りについては、町外の人が入ってくることは今まであまりないですが、町内の人熊に遭遇して転落などで行方不明になつたとかの場合

第1回定例会

・一般質問

“町の今後の医療体制について”の質問項目のうち、「救急体制について」と「病院再建について」は紙面の都合により掲載を省略します。



但木早苗 議員

TPP問題について

【質問】

執行方針に当面する行政課題として、TPPへの対応が示されていますが、12月定例での回答同様「今後も国の動向を注視しながら」とありま

【答弁】（町長）

以前より交渉参加反対などの集会に参加し、反対の姿勢を示しています。

12月定例での答弁でも町自体の崩壊につながりかねない認識のもと、参加交渉には絶対反対の趣旨で答弁したつもりですから、その時点からで

【質問】

気持ちの中で反対ということが明確であったということ

命のバトンは導入するのか！

町長、命のバトンの代わりに新たに町で

発案したQRカードを推進していききたい

であれば、その思いを町民、各関係団体に知らしめていくことが必要ではないか。

関係団体とはどのような連携を図り対応を進めていくのかお伺いします。

【答弁】（町長）

現在本町においても農林水産の3団体が商工会や関連業界を巻き込んで署名活動を展開しており、地道ですが署名活動や反対集会参加、国への要請活動等を展開していきたいと思っています。

町の今後の医療体制について

命のバトン設置について

【質問】

22年の3月議会で質問した「命のバトン」についての答

弁で、「実施に向け研究したい」といただいておりますが、

どう研究し、検討したのか。病院の無床化にあたり新年度予算に計上されているかと思いましたが、計上されてません

【答弁】（町長）

命のバトン導入に向けての町長の考えをお伺いします。

【答弁】（町長）

命のバトンの質問をいただいた後、1年間保健福祉課が家庭訪問や健康診断、さらに救急時における救命士から話を聞き集約した内容で、これからまだ関係団体と協議も必要で予算等にも出しています。QRカードというものを

本町が始めて発案したQR

カードは、65歳以上の高齢者等がこのカードを持ち歩いたり、冷蔵庫等に張っておいて、緊急時に携帯でQRカードを読み取れば、その方の名前、生

年月日、住所、病院の経歴などの情報がわかるものです。現状の中でこれを大々的に稼働させていこうと思ってお

住宅建設促進事業の条例化について

【質問】

今各地で住宅リフォームの条例化が広がり、町の業者を守る雇用を生むとのことで大変効果のある事業だとされて

【答弁】（町長）

町は川根町長になってから住宅建設促進事業として要綱を持って取り組んでおりますが、しっかりと条例化をして町の業者を守っていくこと、更に条件を広げていくことも考え、条例化に向けての町長の考

【答弁】（町長）

要綱については、随時防寒対策も含めて住宅がスムーズな形で利用しやすい制度に改めつつあります。

私もこの事業は続けたいと考えており、今は要綱で5年間やらせていただきますが、この5年間で意見を集約して、5年後にはしっかり条

第1回定例会

・一般質問



高瀬 トシエ 議員

町外路線バスの一部見直しについて

【質問】

医療体制の変化に伴い「ふれあいバス」町外路線バスが果たす医療への役割は大きく、利用者の利便性に考慮して必要な場合、安国市街とシティの前での停車を組み込むこととは可能でしょうか。

また、現状の町外バスの運行時間と各病院での診療体制との関連において、遠軽行きを例にとり見直しを提言するものは可能ですか。

2便の遠軽厚生病院到着は12時であり午前の受付は終了、午後の診療開始まで待つことになりロスが生じます。午前中の診察に間に合うよう再検

町外路線バスの運行時間の見直しはしないのか！

町長、午前診療や午後診療でも

帰町がしやすい時間に変更する

討すべきです。

更に最終便の3便目は、病院着2時10分で、戻りは15分後となっております。事実上午後診療は不可能であり、したがって最終便を利用した午後診療には対応できていないのです。夕方の時間帯に最終便を加えるなど利用しやすい体制に調整すべきと考えますが、一方多くの住民がバス運行に困りながらも一度わかりやすい説明を求めています。また、佐呂間、若佐市街地に設置してある「ふれあいバス停車場」の案内板に時刻表の記入がないままですが、利用者サービスとして時間帯を表示すべきです。

これらの対応についてお考えを伺います。

【答弁】（町長）

市町村が運営する路線バスは、国土交通省陸運局の許可が必要で、各方面の市町村に影響を与えないことが条件で

す。すなわち、始発と終点しか停められない。買い物や用事の人も乗れますが、あくまで医療が目的で拠点は医療機関（病院）のみとなります。

スクールバス混乗でターミナルに集まり、そこから町外に向け出発する。帰路も同様です。

2月中に多くの住民から意見を聞き、佐呂間発8時20分、遠軽厚生病着9時10分の始発便にそのまま遠軽で3時間程待機してもらい、遠軽発12時15分、佐呂間ターミナル着13時15分に変更し、2便は従来の3便がそのまま繰り上がることにあります。

最終便となる3便はターミナル着17時15分とし、増便することなく改善策を検討中であり、町外3路線とも同様の考え方であります。

また、運行時間の案内板表示は、改正後も各家庭に時刻

地元診療所での受診率向上対策は

【質問】

バス路線と沿線から離れた住所の方との格差解消のため、週一回午前中利用と限定している「ふれあいタクシー」の規制枠を広げ、交通の便に恵まれない人々に必要に応じた対応が取れるよう、利用拡大の検討をいただき、受診増につなげたいと考えはありませんか。

【答弁】（町長）

ふれあいバスについては、スクール路線の一般混乗が基本であり、小田医院、佐呂間厚生病院を経由しているので固定ダイヤを利用し、できるだけ地元受診をしていただきたいと思います。

ふれあいタクシーは、無料の予約制で、前日までに予約を入れると、自宅まで迎えに行くということ、4名まで乗り合わせもできるので、各地域には週一回、午前中の運行となっておりますが、大いに利用していただきたいと思います。

第1回定例会

・一般質問



船木 司 議員

行政改革について

【質問】

第3次行政改革を平成22年度で終わり、今後はどのような進め方をするのか伺います。

【答弁】（町長）

平成21年度から財政健全化法によって、地方公共団体の財政の目安として、健全化判断比率の公表が義務付けられています。

今の状況の中で管内的には負けない財政運営を行っていると思っております。今後も第3次の行政改革大綱を継続し取り組んでまいりたい。

【質問】

これからのまちづくりは、職員の研修が必要と思うが、どのように考えているか伺います。

漁業後継者に対しての支援は！

町長、次代を担う漁業後継者等には各種研修に参加して経営につなげてほしい

【答弁】（町長）

職員の研修に当たっては3つのことを掲げていまして、一つ目は、自己啓発として職員に必要な知識や能力の向上。二つ目は、職場内研修を充実させていきたい。三つ目は、職場外研修で、他市町村等の職員との研修など今後も積極的に進めてまいりたい。人事交流も現在行っていないが、今後機会があれば行っていきたい。

【質問】

公会計について、現在町ではどのように考えているかを伺います。

【答弁】（町長）

公会計の制度については、平成18年8月31日の総務省の通達により、従来の地方自

治体は、現金発主義、単式簿記の会計であったのですが、

一般住民に非常にわかりずらいことから、資産や債務の管理、費用の管理、財務情報のわかりやすい開示、発主義の複式簿記などの企業会計手法を導入し、財務4表が今後義務付けられたところです。

1つ目は貸借対照表を作る。2つ目が行政コスト計算書を作る。3つ目は資金収支計画を作る。4つ目が純資産書を作る。この4つを整備し情報公開することとなっております。

現在の状況は、町単独のシステム導入が困難ことから、本町が加入している北海道自治体情報システム協議会に委託し、本町の21年度からのデータを提供し、作業を進めているところです。固定資産管理台帳をベース

産業振興として水産業の取り組みについて

【質問】

若い漁業者が中心となってナマコの試験養殖を行っているが、情報は入っているか伺います。

【答弁】（町長）

3漁協で昨年からナマコの養殖に取り組んでおり、佐呂間漁協では、採卵、そして海中飼育まで行っているという情報もいただいております。

【質問】

漁業後継者や若い漁業者の支援について町の考えを伺います。

【答弁】（町長）

ふるさと佐呂間をさらに元気にするため、活力を生み出す第一産業の振興という形で重要な位置づけはしております。

次の時代を担う漁業後継者や若い人には、各種研修会、講習会等の参加により漁業経営の知識の向上を図っていただきたいと考えております。

第1回臨時会

第1回臨時会が2月16日に開催され、一般会計補正予算のほか3件の議案審議を行ない、いずれも原案のとおり可決しました。

- ・審議した議案
- ・町長行政報告

第1回臨時会 2月16日開会

審議した議案

予算

□平成22年度佐呂間町一般会計補正予算 (第8号)

8259万円が追加され、予算の総額が47億1382万円になりました。

- ・町民税個人現年度課税分 (普通徴収) 1100万円
- ・町民税個人現年度課税分 (特別徴収) 992万円
- ・町民法人税 1297万円
- ・固定資産税現年度課税分 903万円
- ・町たばこ税 509万円
- ・佐呂間保育所保育料負担金 342万円
- ・障害者介護給付費等負担金 303万円

・子ども手当負担金 343万円

・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金 1億2932万円

・財政調整基金繰入金 9989万円

・損害共済給付金 437万円

【主な歳出】

・障害者自立支援費 421万円

・子ども手当 338万円

・合併処理浄化槽設置推進事業費補助金 480万円

・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金 1億2932万円

・重機等借上料 635万円

・建設機械等購入費 934万円

・遠軽地区広域組合負担金 1365万円

・佐呂間町介護サービス事業特別会計繰出金 319万円

その他

□平成22年度佐呂間町介護サービス事業特別会計補正予算 (第3号)
198万円が追加され、予算の総額が2億4041万円になりました。

□損害賠償の額の決定について
自動車事故によって町が行う損害賠償の額が次のとおり決定となりました。

・損害賠償の額 13万8756円

・損害賠償の相手方

北見市春光町5丁目

菅 直七さん

町長行政報告

□佐呂間厚生病院の無床診療所転換に伴う説明会について
厚生病院の無床化受け入れについて、自治会長会議や町

内福祉団体、経済団体との懇談会、地域説明会を20会場、延べ381人の出席で開催し、無床診療所への転換後、どのように診療が継続されるかを示し、今後更に外来診療の充実に向けて協議を進め、常勤医師が決定した際には、町内福祉団体等への説明や、広報での住民周知に努めたいと考えております。

□町営スキー場での事故について
1月24日午後7時頃町営スキー場において、利用者と従業員運転のスノーモービルが衝突し、利用者が負傷する事故が発生致しました。

また、2月4日午後8時頃小学1年生の男子が、ゲレンデと駐車場の境目付近で、土管排水口に逆さまに落ちてしまふ事故が発生致しました。

事故にあわれました被害者及びご家族には、深くお詫びを申し上げます。

このような事故が発生したことは、スキー場設置者として責任を痛感するとともに、再び事故を起こさぬよう安全に関する教育を更に徹底した次第であります。

第2回臨時会

第2回臨時会が4月19日に開催され、一般会計補正予算のほか3件の議案審議を行ない、いずれも原案のとおり可決しました。

- ・審議した議案
- ・町長行政報告

第2回臨時会 4月19日開会

東日本大震災に係る予算

930万円を計上!!

審議した議案

予算

その他

ト交付金 3500万円

- 平成23年度佐呂間町一般会計補正予算(第1号)
4593万円が追加され、予算の総額が53億8109万円になりました。
- 【主な歳入】
・災害復興基金繰入金 600万円
・農山漁村活性化プロジェクト交付金事業費債 3500万円
- 【主な歳出】
・東日本大震災復興支援に係る経費 930万円
・農山漁村活性化プロジェクト

- 専決処分の承認を求めることについて
平成22年度佐呂間町老人保健特別会計(第3号)の専決処分について承認しました。予算の総額は、4万円が追加され、379万円となりました。
- 専決処分の承認を求めることについて
平成22年度佐呂間町一般会計補正予算(第10号)の専決

処分について承認しました。予算の総額は、1億6422万円が追加され、53億4114万円となりました。

- 【主な歳入】
・地方揮発油譲与税 1215万円
・特別交付税 1億7097万円
- 【主な歳出】
・北海道市町村備荒資金組合超過納付金積立金 5000万円
・財政調整基金積立金 1億2000万円

町長行政報告

□佐呂間厚生クリニックの内科医師の赴任について
名寄市から転入された内科医師は4月1日に佐呂間厚生クリニックにおいて辞令交付が行われ、4月4日より診療を開始しております。
この医師が赴任して2週間余りが経過しましたが、患者や職員からも信頼感のある医師との評判を得ており、未永く本町で診療していただくことを期待します。

議会を傍聴してみませんか!

第2回定例会は6月に開催されます

詳しくは議会事務局(TEL 2-1291)まで!



傍聴者 からの声



富武士 室井久志 さん

私が傍聴したのは2日目の
一般質問で、内容はふれあい
バスと後継者への助成など
でした。

ふれあいバスは、運行が始
まって半年が経ち、利用者か
ら利便性などでいろいろと要
望があがっているようです。

町唯一の公共機関となった
今、医療難民や買い物難民な
どが出ないように、町と利用
者が意見を出し合い、より良
い運行体制を構築してほしい
と思いました。

後継者などへの助成の質問
でも、いろいろな面での助成
があるように町の考え方もわ

かり、参考になりました。

どちらの質問者も地域住民
を思う気持ちを感じられ、地
域の代表者たる雰囲気があ
り、町の答弁にも町民を思う
気持ちが出ていたように感じ
ました。

他には厚生病院の医師の問
題なども出ていたようで、町
としては予算も含め重要な問
題を持った議会となっていた
のに、傍聴者は私を含め二三
名と寂しいものでした。

町民として町により良い行
政を望むなら、そのことを議
論している議会などに、もっ
ともっと関心を持たなければ
なと感じました。

町の色々な問題を町と議会
が色々な視点から活発な議論
をして、より良い議会活動を
期待したいと思いますが、そ
の為にはもっと多くの町民が
傍聴者として参加することが
一番ではないでしょうか。

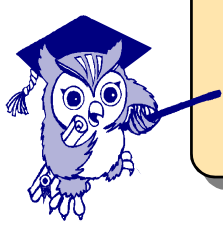
なぜなら、観客が多ければ
張り切ってしまう。人間の心
理として確かなことではない
でしょうか。

議会だよりに対するご意見・ご感想をお寄せ下さい！

議会事務局宛て

TEL 2-1291

Eメール gikai@town.saroma.hokkaido.jp



あとがき

「巨大津波の爪痕に想う」

数年前の竜巻災害に地元の人々はこの世の地獄を見たに
違いない。これ以上の天災な
どある筈がないと……。

しかし3月11日、東日本太
平洋沿岸に大地震による巨大
津波が発生した。深く速い大
波は見る見るうちに殆どの建
物を押し流し、多くを波上に
浮かべたまま再び海に引き込
んで行く！

あの中に親が、子が、妻が！
強く握り合ったはずの手が引
き剥がされ、家族の絆さえも
奪ってしまった。

死者、行方不明者約2万8
000人、我が町の約5倍の
人々の命がむなしく消えたこ
とになる。かつて合併後の実
情を見聞するために訪れた宮
城県南三陸町は、古い庁舎に
寄り添うように新災害対策室
が併設され、地震災害には十
分配慮されていた筈だった。

一面のガレキの中にむき出

しになった鉄骨の残骸は、対
策室の名残とともに紛れもな
く存在した庁舎の跡を示して
いる。

画面を指差し息を呑んだ。
鎮魂の思いに言葉も出ない。
助けを求め叫び声、生き
残ったことへの罪の意識、心
のよりどころを失ったままで
生き続けることのむなしさ、
生きる者もまた辛いに違いな
い。

寒さと食糧不足に苦しむ避
難所の実態、生命線となる物
流の停滞、高齢化した地域社
会の混乱、加えて倒壊した原
子力発電所からの放射能汚
染、その被害の深刻さ、政府の
初期対応の不備など課題も多
い。

辛い分だけ明るく振舞う
人々に対して何の手助けも出
来ない無力さに胸が痛む。こ
れ以上の悲しみが起こりませ
んように、そして心穏やかな
日々が一日も早く訪れますよ
うに。

合掌

(高瀬トシエ)